

小田原市ゼロカーボン・デジタルタウン基本構想 【素案】

 小田原市

1	事業の目的と基本構想の位置づけ.....	P.2
2	基本的な考え方.....	P.3
3	整備コンセプト.....	P.4
4	導入する技術や施設・サービスのイメージ.....	P.5
5	街のイメージ.....	P.9
6	事業主体のあり方.....	P.10
7	スケジュール.....	P.11

事業の目的

地球温暖化対策として、市が目指している2050年度までの二酸化炭素排出量実質ゼロ（ゼロカーボン）を加速させるために、「究極のゼロカーボン」と「社会変化に適応した豊かな暮らし」の両立を「デジタル技術」で支え、社会課題の解決を図りながら幸せを実感できる暮らしを体現する街を創造するものです。

公民連携により実施することで、これまでの市の取組をより深化させ、新しいライフスタイルを示し、ゼロカーボンやデジタル社会に向けた市民の行動変容につなげ、市内外、世界への横展開に貢献していくことを目的としています。

基本構想の位置づけ

第6次小田原市総合計画（2030ロードマップ1.0）

環境

第3次小田原市環境基本計画
小田原市気候変動対策推進計画

デジタル

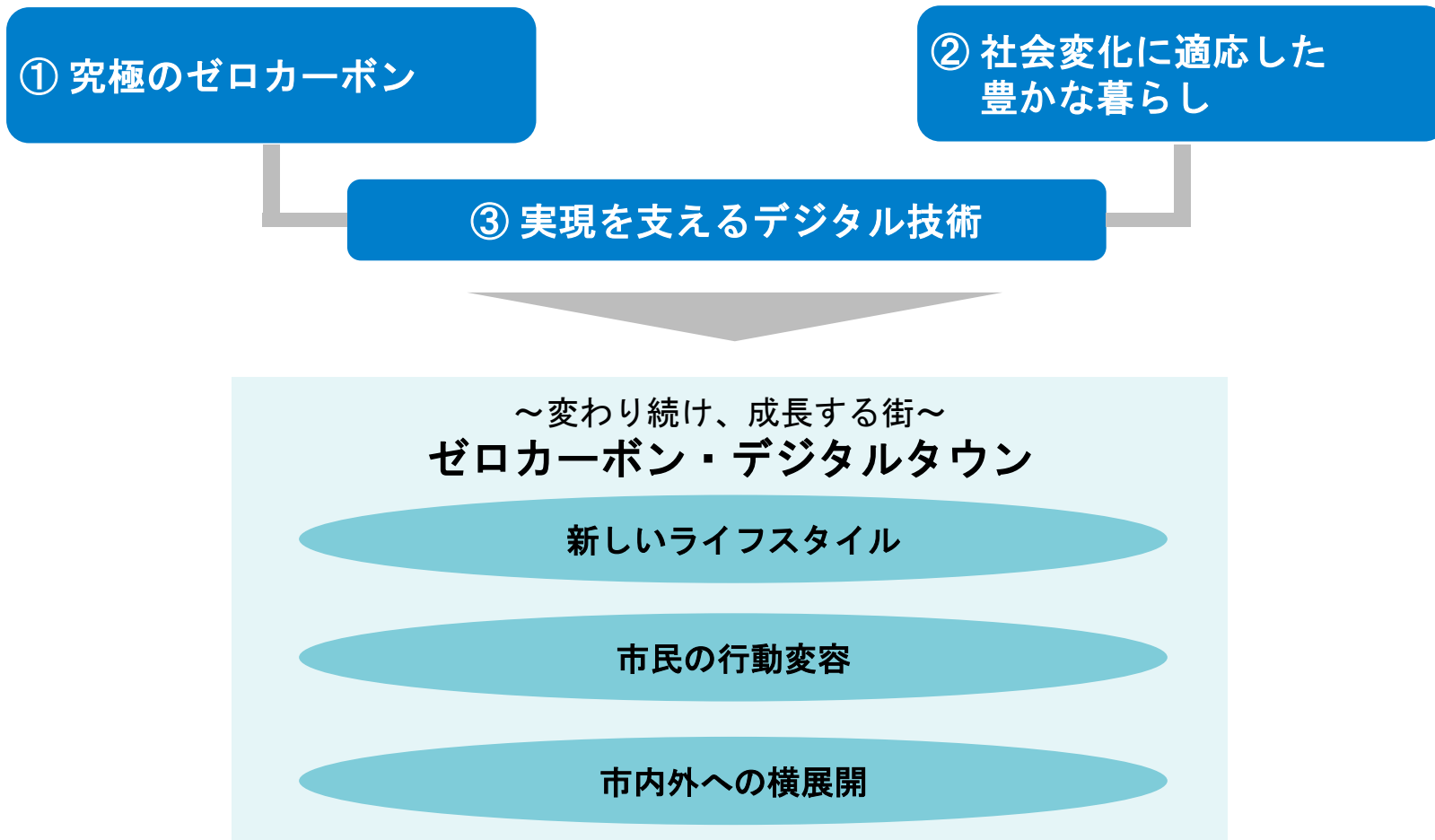
小田原市DX推進計画

都市計画

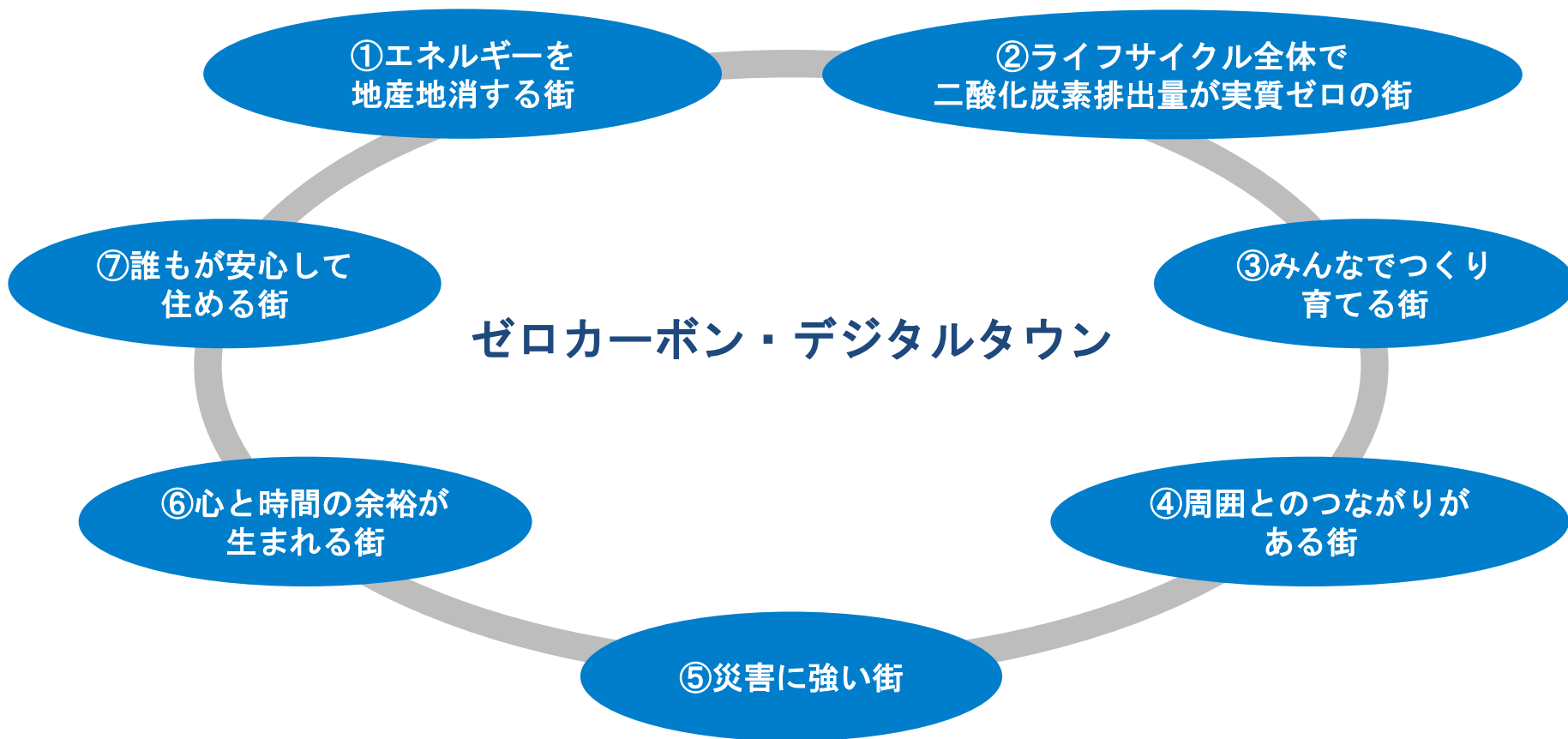
小田原市都市計画マスタープラン
小田原市立地適正化計画

小田原市ゼロカーボン・デジタルタウン創造事業

- ゼロカーボン・デジタルタウンは小田原の“未来のまち”そのものであり、市民主体の豊かで快適な新しいライフスタイルの実現に向けた基本的な考え方は3つです。



- 市民の行動変容へと繋げていくため、新技術を実証・実装しながら新しいライフスタイルを示し、住民を中心とした暮らしの場を創出します。



- 究極のゼロカーボン実現に向けては、様々な先進技術を導入する予定です。
- 小田原の地域資源と先進技術を組み合わせ、一人ひとりの暮らしと生きがいを創造します。
- 住民起点のイノベーションを生み出す「場」である、リビングラボの考え方を導入します。

導入技術のイメージ

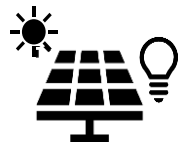
断熱性、気密性が非常に高い居住空間
高いエネルギー効率、省エネ性能



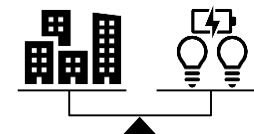
電気自動車化（EV化）



あらゆる場所で再生可能エネルギーの創出
（屋根、壁面、道路等）



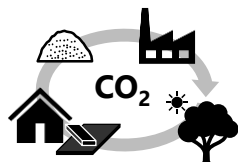
エネルギー使用状況可視化、需給最適化



低排出型の建材使用
（木材等）



カーボンリサイクル



廃棄物由来の二酸化炭素排出の削減

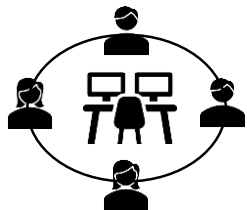


施設のイメージ

幅広い世代の誰もが暮らしやすい
快適な住環境



多様な働き方を支える
ビジネス環境



レジリエンス機能
(非常用電源・蓄電設備、衛生設備)



職住一体化に対応した
快適な生活空間



住民や周辺地域との
交流を活性化する場

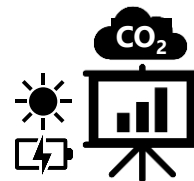


生活利便性を高める
小規模店舗

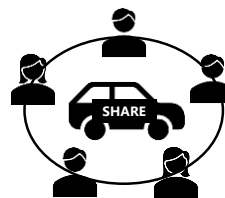


サービスのイメージ

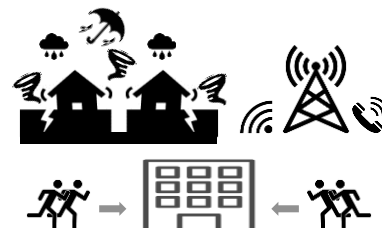
エネルギー情報の
リアルタイムでの収集と
可視化



EVカーシェアリング



災害時に活用できる
避難誘導システム



デジタル技術を活用した
健康データ管理・
医療サービス



移動の効率性と利便性を
高める次世代モビリティ



住民間双方向の
コミュニケーションサービス



路面太陽光発電

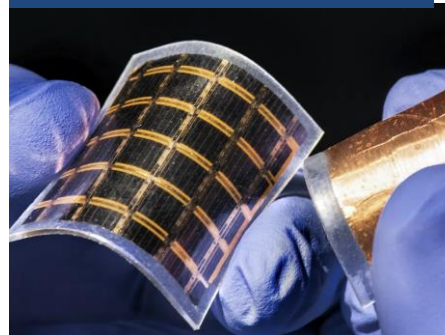


出典：Florian Pépellin
(https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Route_solaire_%C3%A0_Savoie_Technolac_%28juin_2018%29.JPG?uselang=ja)

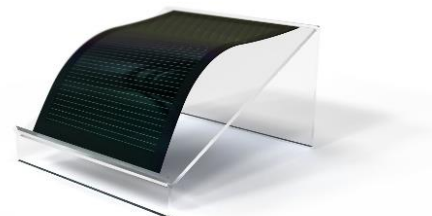


出典：MIRAI-LABO株式会社

ペロブスカイト太陽電池

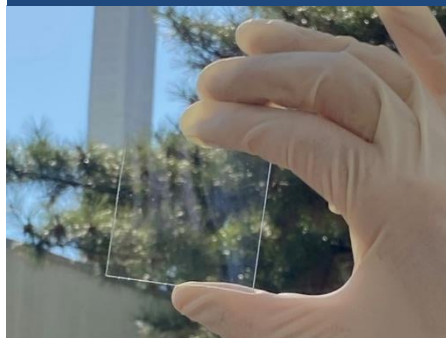


出典：U.S. Department of Energy



【フィルム型ペロブスカイト太陽電池(イメージ図)】
出典：東芝エネルギーシステムズ株式会社

ガラス発電／垂直太陽光パネル



出典：OPTMASS・京都大学大学院坂本雅典准教授



出典：エア・ウォーター株式会社

EVカーシェア／蓄電池



出典：photoAC

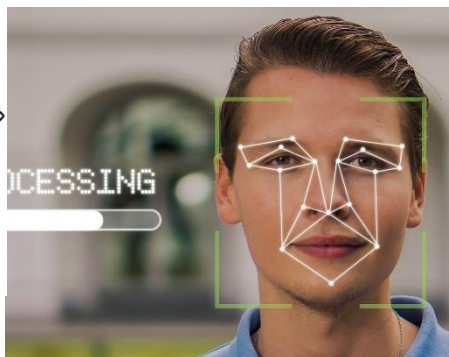


出典：photoAC

スマートホーム／顔認証システム



出典: Pixabay



出典: Pixabay

避難誘導システム



出典: 国土交通省ホームページ
(<https://www.mlit.go.jp/plate/au/use-case/uc22-026/>)

自動配送ロボット／ドローン



出典: pexels



出典: photoAC

小型モビリティ

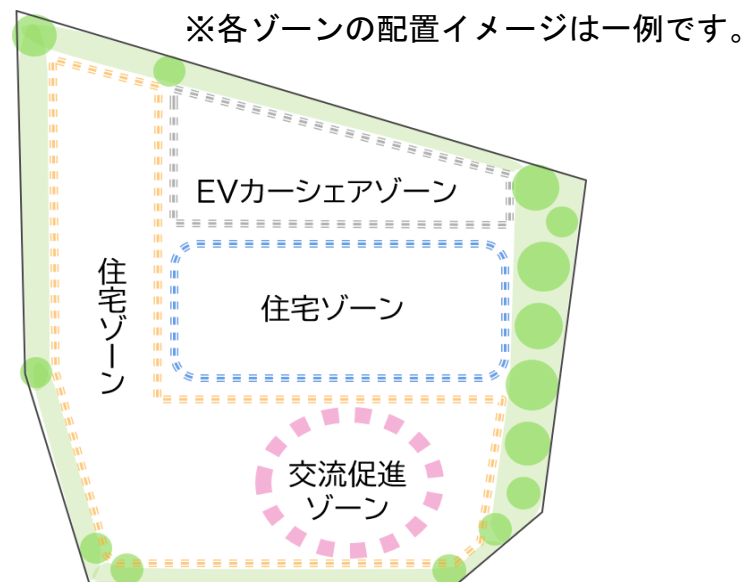


出典: Mytho88
(https://commons.wikimedia.org/wiki/File:2013_Toyota_i-Road_01.jpg?uselang=ja)



出典: photoAC

- 計画候補地は、利便性の高い一団の土地である小田原少年院跡地です。



所在地	小田原市扇町1丁目4-6 (小田原駅西口から約500m)
面積	約2.24ha
所有者	財務省
用途地域	第二種住居地域
建蔽率 / 容積率	60% / 200%
高度地区	第2種高度地区

EVカーシェアゾーン
EVカーシェアリング、小型モビリティ、ソーラーカーポート
住宅ゾーン
高気密・高断熱の戸建や集合住宅、太陽光発電、蓄電池
交流促進ゾーン
公園/広場、集会施設/災害時避難場所、小規模店舗、シェアオフィス、蓄電池

- 事業の実施主体として公民連携によるまちづくり会社の設立を想定しています。

小田原市

- 市は街の理念やコンセプトづくり
- 街のモニタリング

まちづくり会社

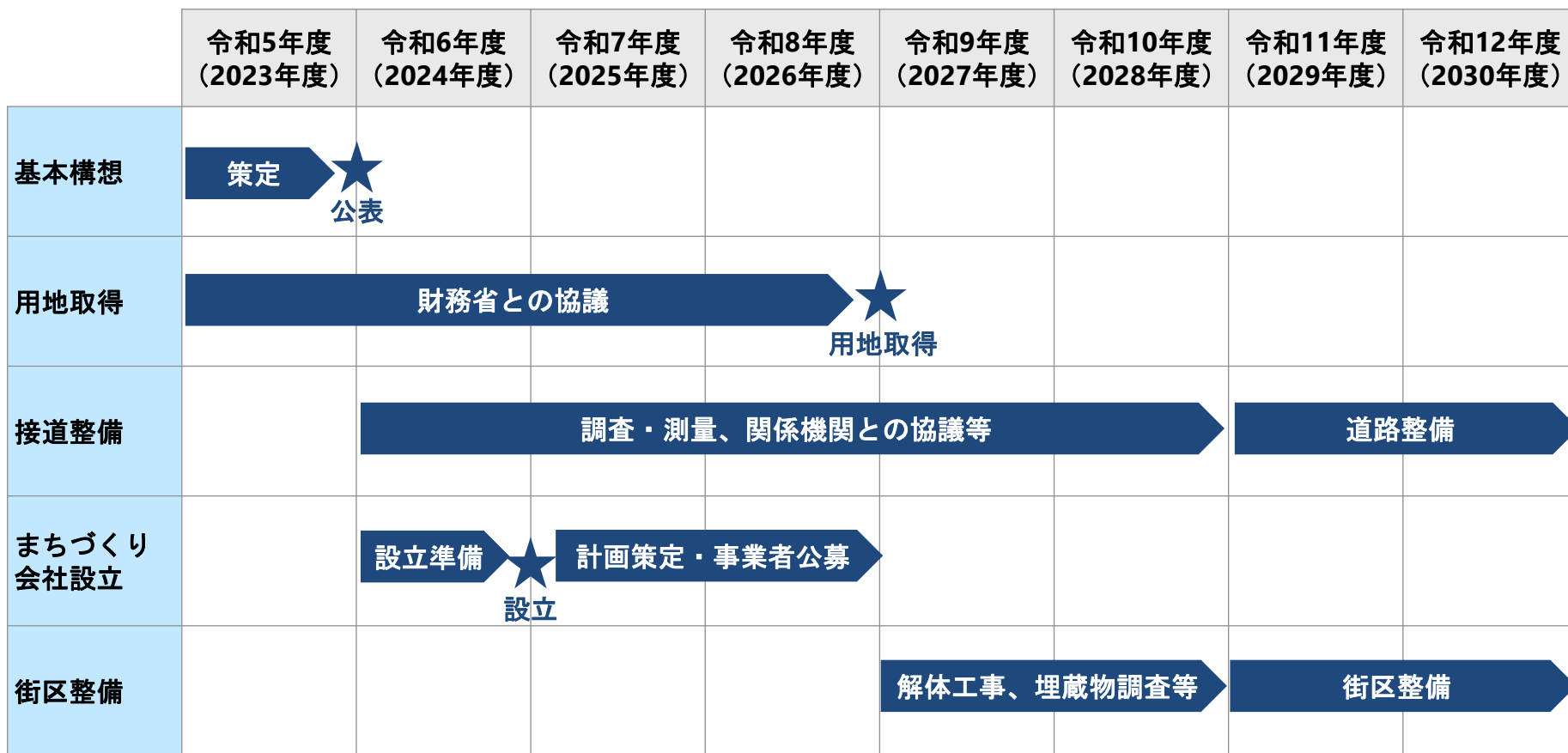
- 事業用地の取得
(市が一時的に取得後にまちづくり会社に売却する場合もあり)
- 街の開発事業者の選定
- 選定した開発事業者に用地売却
- 街の管理・運営

開発事業者

- 市やまちづくり会社の方向に沿った街の開発

※上記は現時点での想定であり、詳細な事業スキームについては今後検討していきます。

- 2030年度の街びらきを目指します。



※スケジュールは現時点の想定であり、今後変更の可能性があります。